

身近な自然の観察をしてみましょう

私たちの周りには、多くの生きものたちが暮らしています。

まずは、近くの公園、林、原っぱ、水辺など身近な場所で「見上げてみる」「のぞいてみる」「立ち止まってみる」「耳をすましてみる」など、さまざまな方法で自然観察をしてみましょう。

数多くの草花や昆虫、鳥などの姿や声に気づくことができるはずです。

おなじ場所でも季節ごとの観察の楽しみがあります。

春、池に現れるオタマジャクシ、サナギから成虫になるチョウ、冬にわたってくるカモなど、季節によって姿を変える生きものや、限られた季節にしか見られない生きものがあるからです。

観察をつづけていくと、見かける時期の変化に気づいたり、今まで見ることがなかった鳥や昆虫に出会えるかもしれません。

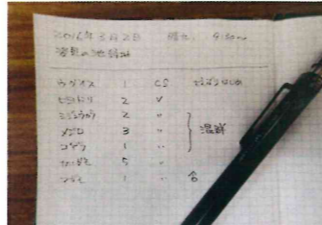


青い鳥（オオルリ）に会えることも！

記録してみましょう

観察した生きもの名前のほかに、「場所、日時や天気」も記録しておきましょう。そのほかにも次のことを記録すると、あとで確認するときの手がかりになります。

- 数（どのくらい）
正確な数字でなくても、おおよその数を記録しましょう。
- 姿や形（どんなふう）
オス・メス、成虫・幼虫などのちがいや色や大きさ、形などの特徴を記録しましょう。
- 行動（どこで何を）
「公園のよく日の当たるところで花が咲いていた」、「林の中の木の間に飛んでいた」、「水辺で何がを食べていた」など、くわしく記録しましょう。
- 写真やスケッチ
写真を撮っておくと、あとで図鑑などを使って調べるときに役立ちます。



記録には小さなノートが便利です

<自然観察ノート>

観察日： 年 月 日

時間： : ~ : 天気：

「どのくらい（数）」「どんなふう」に「どこで何を」など、気が付いたことを具体的に書きましょう。

はじめてみよう 身近な自然観察
編集・発行：国分寺市 まちづくり部
まちづくり計画課
〒185-8501 国分寺市戸倉
1-6-1 第二庁舎2階
TEL：042-328-2192
FAX：042-324-0160
編集協力：株式会社 生態計画研究所

はじめてみよう 身近な自然観察



こくぶんじし かんきょうぶ かんきょうけいかくか
国分寺市環境部環境計画課

写真撮影のポイント

写真を撮影するときのポイントです。

- 生きものの特徴が写るように工夫してみましょう。マクロモードで花を撮影どこから写すとよいか迷うときは、いろいろな角度や部位を撮影するとよいでしょう。
- 全体にピントが合うようにしましょう。例えば、チョウの羽は全体の模様がわかると識別しやすくなります。
- 小さな生きものを写すには最近のデジタルカメラには「マクロモード」という機能を備えているものがあります。それにより、小さな生きものもぼやけずアップで撮ることができます。
- 風景も写しましょう。生きものだけでなく、まわりの風景も撮影し、生きものがある環境も一緒に記録しましょう。
- データを整理しておきましょう。あとで確認しやすいように、生きもの種類、場所、日時、コメントなどと一緒に画像を整理しましょう。



観察をするときの注意

- 次のことに注意して、観察しましょう。
- 生きものには、それぞれ見つけやすい時期や場所があります。観察する場所や生きものの特徴の下調べをしておきましょう。
- むやみに生きものを殺さないようにしましょう。
- 捕まえた生きものは元の場所に戻しましょう。
- 毒のある毛虫やハチ、かまれる危険のあるヘビの仲間などには注意しましょう。
- ぼうし、長そで・長ズボン、運動ぐつなど、安全に観察できる服装でかけましょう。水辺での観察では、水にぬれてもよい服・くつでかけましょう。
- 危険な場所や他人の土地に入らないようにしましょう。子どもだけで、水辺や夜の調査に行くのもやめましょう。
- 事故にあわないように、車や自転車などまわりに気を付けましょう。



スズメバチには近づかないように

<市内で記録されている動植物> ※（ ）内は観察時期 春：3～5月 夏：6～8月 秋：9～11月 冬：12～2月



タチツボスミレ（春）



ムラサキケマン（春）



キツネノカミソリ（夏）



ヤブミョウガ（夏）



ヤクシソウ（秋）



ツミ（一年中）



カワセミ（一年中）



エナガ（一年中）



コゲラ（一年中）



アオサギ（一年中）



ウラナミアカシジミ（春）



ノコギリクワガタ（夏）



ヒグラシ（夏）



オニヤンマ（夏）



ヒナバッタ（秋）



アズマヒキガエル（春～秋）



ニホンスッポン（春～秋）



ニホンカナヘビ（春～秋）



ヒガシニホトカゲ（春～秋）



アオダイショウ（春～夏）